



学校だより

横浜市立相武山小学校

3月号

令和6年2月26日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



「^{たから}宝^{もの}」

学校長 後藤 直樹

今年は、卒業式や入学式での満開を狙って、少しずつ時期を変えて菜の花の種まきをしましたが、年の瀬が暖かかったので最初の種は1月末、早々に満開となってしまいました。2月には冬らしい冷え込みの日もありましたが、このままいくと今年は池の氷を目にすることは無さそうです。雪の日、低学年に限らずたくさん子どもたちが、にこにこしながら素手で雪の塊を持って登校してくる風景に、少しだけホッとしました。

さて、2月17日にPTA保健成人委員が主催して「卒業祝いもちつき大会」が開催されました。6年生の子どもたちは土曜日の午前中、親じ会が企画したレクリエーション、そして西松本町内会の全面的なご協力による餅つき、そして、保健成人委員の手による豚汁で体を温めていました。私は、とにかくこの企画に関わってくださる大人の数に驚かされました。長い準備期間をかけ、食材仕入れの段取りに始まり、分単位の綿密な計画を作成して当日を迎えました。参加した子どもたちは、楽しい思い出と共に、自分たちのために力を尽くしてくれている大人が、これほどたくさんいることに気づいたはずです。そして、自分たちがどれほど大切にされているかを感じ取ったに違いありません。携わった大人もまた、素直に喜ぶ子どもたちの笑顔に満足気でした。きっと子どもたちは、誰かのために尽くすことの尊さや優しさを知り、これから先の長い人生を「社会に貢献できる人になりたい」という思いをもって生きていくことと思います。

思えば3年前の着任当初は正にコロナ禍の真っ最中でしたので、多くのこうした行事が中止となりました。これほどの保護者や地域の応援がある学校であることは、言葉で説明は受けていたものの、本当には分かってはいなかったような気がします。今、改めて相武山小学校を支えてくださる地域の応援団「宝物」に感謝しています。

6年生の子どもたちは卒業を前に、ボランティアの皆さんにプレゼントするために、心を込めて手縫いのコースターを作成していました。



卒業祝い餅つき大会